

質問項目

- 1、地域共生社会における社会教育と生涯学習について
 - (1) なかの生涯学習大学について
 - (2) シニア世代が地域につながる施策について
 - (3) 社会教育施策について
 - (4) 図書館行政について
- 2、すこやか福祉センターと区民活動センターについて
- 3、学校教育について
 - (1) 令和の時代の学校教育環境整備について
 - (2) 幼児教育について

概要

1、地域共生社会における社会教育と生涯学習について

(1) なかの生涯学習大学について

問① 区は「令和3年度予算で検討中の主な取り組み(案)」において「なかの生涯学習大学」をシニアの生涯学習事業と地域での応援事業に再編する検討を進めることにしたが、多くの区民は昨年12月20日号区報の数行の掲載で初めてこの見直しについて知ることになった。説明はわかりやすいものにすべきだったのではないか？また今後説明の場が必要ではないか？

回答 今後、在校生や卒業生に向けた説明の機会を設け、丁寧に説明を行っていく。

問② 令和5年度まで新入生の募集はしないとのことだが、再編にあたっては現在の事業と新しい事業とがうまく接続するように進めるべき。募集は中止するべきではないと考えるがいかがか？

回答 令和2年度はコロナにより休講だったこともあり、令和3年度は新入生の追加募集も含め開講する。令和4年度については地域における活躍を応援する場を継続的に提供できるよう、接続も考慮しながら検討する。

※「なかの生涯学習大学」(略して生大)とは

55歳から82歳までのシニア世代を対象にした社会教育事業。約50年の歴史があり、これまで8千人人以上の卒業生を輩出し、今も現役で活躍している方も多い。

3年進級制のカリキュラムは、地域入門講座から文化講座まで多岐にわたっている。

目的は「地域で新しいライフスタイルを創造する」「地域のために活動する意欲を培う」「地域社会への主体的参加の促進を図る」とされており、地域住民や関係団体が主体となって、一人一人の暮らし、生きがい、地域を共に作っていく社会の構築を目指すという「地域共生社会」の理念と合致したものとなっている。

★生大再編をキーワードに、シニア世代への取り組みの課題と地域共生社会における社会教育と生涯学習について問う

(2) シニア世代が地域につながる施策について

地域に馴染みがなく過ぎてきた方々はリタイア後は所属がなくなりこれからどのように過ごしていくのか思案することになる。このときわがまちで過ごすための様々な選択肢が示され、共に助け合える仲間ができる地域コミュニティにつながる事ができれば、リタイア後の方々の暮らしは豊かになる。

健康で、地域で活躍するシニア世代が増えることは地域コミュニティの活性化だけでなく、地域の見守り支え合い活動や防災防犯の取り組みなどを進める上でも、医療・介護経費減といった面からも有効。生大の事業はこうした意味からも大事な事業だった。ただ、近年生大の入学希望者やシルバー人材センター登録者などは減少してきている。

問③ 介護や福祉分野だけではなく、シニアの生きがいや地域活動についての情報提供が足りないのではないか？ HP を改善する。ハンドブックなどを作成して配布するなど、シニア向けの情報提供の強化につとめるべきだと考えるがいかがか？

回答 ホームページの充実やハンドブックの作成などにより、シニア世代の生きがいづくりや地域活動デビューにつながる情報提供の充実を図っていく。

問④ 活動支援体制の強化を

地縁のない方にとっては講座を受講しても地域の活動につながっていかないという課題がある。会の立ち上げなどに助成金制度はあっても、新たな活動をスタートする場合、地域という場所での活動につなげるための直接の支援がない。

活動と地域ニーズとのマッチングや、既存団体の紹介をするなど、中間支援の体制を整備し、活動支援の体制を整えるべきかどうか？

回答 区は、地域で活躍しようとする人材の地域デビュー等を応援する取組として、地域ニーズのマッチングや運営の支援など、いわゆる中間支援の機能強化について検討を進めている。このなかで、シニア世代を対象にした支援についても検討していく。

今後、効果的に地域につなげるための支援が行えるよう、中野区社会福祉協議会とも協議を進めていく。

(3)社会教育施策について

問⑤-1 地域共生社会における社会教育施策の考え方を明らかにすべきである

どの区民も生きがいを持って過ごす。個人の学びによって得た知識や自身の持つ能力や経験をこのまちで活かしていく、このまちを共に創っていく。そうした社会をどう描いていくのかということが行政が行う社会教育であり、学習機会を充実させるだけで済まされることではないがいかがか？

問⑤-2 この度のなかの生涯学習大学再編は、区の社会教育施策の再考につながるものだ。生大の再編は、中野区の社会教育施策の位置づけの中で検討するべきだと考えるかどうか？

回答 1 社会教育施策を推進することは、区民自らの文化的教養を高めるだけでなく、区民の生きがいづくりにつながると考えており、今後も多様な学習環境や機会の充実を図ることで、区民が生涯を通じて主体的に学び続けることができるように進めたい。

回答 2 なかの生涯学習大学の再編において、生涯学習を支援する機能と地域の様々な活動へのデビューや活動継続を応援する機能を分化し、ニーズに応じてそれぞれが効果的に機能するよう再編し、それぞれの機能が充実することを目的として検討を進めていく。

※「生涯学習」とは、生涯にわたって学び続けることを指す。

個人的な学びや家庭教育とは別に、生涯学習実現のために組織的に行われる教育のうち、学校教育以外のものを社会教育とよぶ。国は、各自治体に社会教育を進めていくことを求めている。

問⑥ 中野区で発行している「生涯学習&スポーツ」という冊子は、内容が多すぎてわかりにくい。編集を見直してはどうか？

回答 区民にとってわかりやすい情報が提供できるよう、ホームページでの活用も含め掲載内容などについて検討していきたい。

問⑦ 社会教育主事は教育委員会に配置するべきでは

地方自治体は、社会教育法に基づき「社会教育主事」を教育委員会に置き、社会教育の全庁的な調整を行うように求められているが、中野区においては、現在補助執行という形で区民部に配置されている。組織のあり方は、一つのメッセージでもある。これから構造改革が進められる。社会教育・生涯学習の分野を教育委員会に設置し、今後区として社会教育施策をしっかりと推進していくべきであると考えがいかがか？

回答 現在、社会教育に関する事務については、図書館に関するものを除き、教育委員会から区長の補助機関に補助執行を行っており、区の生涯学習・スポーツ活動・文化芸術活動などの施策と一体的に進めている。

今後の社会教育施策の展開に向けては、区民にとって生涯にわたり学び続けることができる環境を整備することが必要だと認識している。組織体制については、今後検討していく。

(4)図書館行政について

問⑧今後の図書館のあり方をどのように考えるのか？

図書館は社会教育施設の一つ。この先デジタル化が進み、コロナ禍における新たな生活様式が進むなか、図書館の姿は大きく変わっていくことが考えられるが、人が集う場所としても大切にされるべきである。

今後の図書館行政において、こうした変化についてどのように考えるのか？

回答 滞在型利用の場を確保するとともに ICT を活用し、さらに新たな機能を取り入れるなど一層の利便性をはかっていく。

問⑨図書館整備には区民の意見の反映を

杉並区立中央図書館はリニューアルについて区民のワークショップ形式で意見聴取した。こうした活動により区民に取って愛着のある図書館が生まれる。新たな図書館整備にはこのような方式を検討されてはいかがか？

回答 今後新たに整備・改築する際には、ワークショップ等参加型の意見聴取についても検討していく。

問⑩中野区の図書館の課題解決について

現在中野区の図書館行政に関しては、令和元年度に「今後の図書館サービスのあり方検討会」で検討の取りまとめが行われたという状況となっている。平成 30 年度のデータによると、児童書の区民一人当たり蔵書数は 23 区中 21 位。他にも閲覧席が少ないなど、あり方検討会において問題提起された課題は、今後どのようなスケジュールでどのように解決されていくのか？

回答 引き続き検討していく。

問⑪今後の図書館配置計画は？

区有施設整備計画素案たたき台で、図書館配置計画は示されていない。地域開放型学校図書館の配置も、先行 3 館の実績を見て決めるとしているが、2 千冊での利用実績がその後の参考になるかは疑問である。児童館の図書室の利用も可能ではないか？学校図書館の整備も含め、丁寧な議論を経て計画されるように望む。

今後どのようなスケジュールでどのように検討されるのか？

回答 今後、「教育ビジョン 第 3 次」や「子ども読書活動推進計画 第 3 次」の改訂を予定しており、その検討と合わせて検討していく。

2、すこやか福祉センターと区民活動センターについて

コロナ禍、ひとと人との交流が難しくなった時、力を発揮したのはやはり顔の見える間柄。地域のつながりだった。

地域の活動が広がるよう地域団体の活動支援や団体間のネットワークづくりを進めることは区活の第一義的な業務だが、地域で新たに活動したいと思う方々に対しての支援体制が構築されていない。また地域団体の連携も課題がある。

問⑫-1 より地域活動に就業できるよう事務局員の業務内容の見直しが必要ではないか？

職員配置の検討も必要であると考え。

問⑫-2 基本構想での「つながる はじまる なかの」の実現のために、区民活動センター運営委員会、すこやか福祉センター、地域支え合い推進部、社会福祉協議会との連携体制についても「互いの強みを活かす形で」を合言葉に、業務の見直しをしては
いかがか？

地域コミュニティ研究によると、地域自治や地域連携は、そのまちにそうした素地があるとスムーズに進んでいくと言われている。

10 年ひと昔、温故知新と言うが、この中野の地方自治の歴史を振り返りつつ取り組んでいただきたい。

回答 1 庶務的な業務が負担であるという運営委員会の声を聞いている。地域の自治活動および公益活動の推進や、地域活動団体への支援にさらに注力できるよう、地域ごとの課題を把握し、改善方法について検討していく。

回答 2 それぞれの役割にそって総合的に支援を行うことが必要であると認識している。関係機関と連携方法について協議し、見直しを行っていく。

※地域センターから区民活動センターへ再編 今年10年目の節目の年

昭和50年から順次設置された「地域センター」は、平成23年に「区民活動センター」と「地域事務所」に再編され、同時期にすこやか福祉センターが開設され地域の組織は姿を大きく変えた。

地域センター構想は、住民自治・コミュニティ政策の観点から、当時全国でも珍しい取り組みだった。居住地域を単位として区民参加を求める形態は基本的には区活に引き継がれたが、大きな違いは、区活では町会・自治体を中核に組織された「運営委員会」を設置し、区はそこに地域活動支援に関する業務運営を委託したという点であった。

3、学校教育について

(1) 令和の時代の学校教育環境整備について

コロナ禍以降の学校は、今後その姿を変えていこう。大きな困難は、時に社会がより発展していくための変革の原動力になると言うが、ギガスクール構想はまさにコロナを契機に実施が早まった。ICTを活用した学習が進み、学習の形態も変化していく。懸案だった少人数学級も小学校においては2025年までに全学年で35人に移行することになった。また外国語科がスタートした小学校高学年では教科担任制度が令和4年度をめどに導入される可能性が高い。こうした令和の時代の変化を見越して、地域との連携や教員を支えるスタッフ確保など新たな教職員体制も検討されることになる。

問⑬ 学区の人口推計も考慮しながら、35人学級や新しい指導のニーズにも対応できる余地のある施設整備を計画していく必要がある。現在策定中の計画において、どのように配慮され進められていくのか？

回答 学級編成基準の改正やこれからの学校教育、学校施設に求められる新たなニーズに柔軟に対応できるような学校施設整備を計画していく必要がある。現在中野区立小中学校施設整備計画改定に向けた検討を進めているところである。

(2) 幼児教育について

子育て世帯の半数以上が保育園に子どもを預ける時代だが、区の調査によると幼稚園需要は今後も横ばいとされている。

中野区では子どもと過ごす時間を大事にしたい、保護者活動を望んでいる、園庭が大事にされている。など保育内容が好きであるという理由で区立幼稚園に通いたいという世帯が一定程度いると考えられる。多様なニーズに対応するというなら、認定子ども園ではなく「中野区立幼稚園」に通いたいというニーズを誇りに考えることも必要なのではないか？区長は区立園を訪れて、区として公立幼稚園を持つことの意義を話されていたと聞く。

問⑭ 今後も区立幼稚園としてこの2園を残していただきたいと考えるがいかがが？ ¥

回答 運営形態等については現在教育委員会で検討している。検討結果については、保護者等に丁寧に説明していく。

※中野区の現状 保幼小中15年間の学びの連続性を踏まえたカリキュラム連携に取り組み、様々な実践活動が積み上げられており、これは公立園としての強み。

区立園では多様なお子さんの受け入れをしている現状がある。

待機児童解消対策としては、幼稚園一時預かり事業の拡大での対応も一定程度は可能。

こども園化は幼稚園教諭の人事硬直化対策としては疑問が残る。

※近隣自治体の幼稚園需要

練馬区、豊島区は、区立園が3園あとは私立園。世田谷区は区立5園で私立園53園と設置割合が中野区と似ており、預かり事業も中野区同様に20-30人で実施されている。が、いずれの区立幼稚園も大半が定員割れしている。一方で中野区はほぼ100%が続いている。←中野区立幼稚園の需要の高さの理由は、分析が必要。

4、その他 ↓時間なしで言えず

コロナにより多くの子どもたちがストレスを抱えている。

不登校や暴力などのストレスの症状は、原因となる事例に出会ってから4、5年以上あとから発現することも多いそうだ。うつ発症や自殺者数の数値も上がっている。すべての大人が子どもたちにの心に丁寧に向き合っていけるように願う。